

中部地方整備局の「技術研究会」について

国土交通省中部地方整備局企画部技術管理課

教習係長 伊藤 真也 いとう しんや

1. はじめに

近年の社会資本の整備・管理にあたっては、効率性の確保がより一層望まれており、新技術・新工法が数多く提案される中、企業の技術力評価など職員の技術判断がますます必要となってきています。

このため、国土交通省中部地方整備局では、中部地方整備局全体および職員個々の技術力の保持・向上を目的として、幅広い知識・判断力と特定専門分野の深い知識・判断力を備えた T 型技術者（図 1 参照）を育成するとともに、これらの専門知識を若手職員に直接伝承するためのエキスパート集団として技術研究会を設置しています。

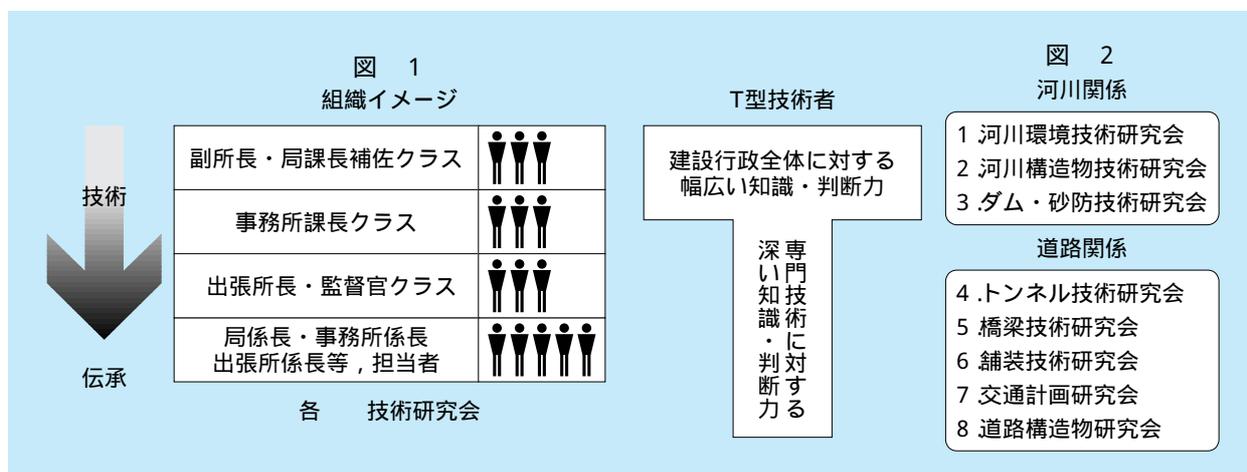
2. 技術研究会の部門構成

技術研究会は、当初六つの研究会で発足し、平成16年10月に交通計画研究会および道路構造物研究会の二つの新しい研究会が加わり、現在八つの研究会が活動しています。

また、各部の要請等により新規の技術研究会を設置できるとしています。

3. 技術研究会の組織について

会員は国土交通省中部地方整備局の技術系職員（土木、電通、機械）を対象としており、入会を希望する職員が自主登録を行います。



各技術研究会には、とりまとめ役として座長および事務局をおき、活動の企画と運営を行っています。

また、各技術研究会の情報交換の場として年間数回「座長会」を開催しており、各専門分野共通の新たな技術的課題や、技術研究会の運営全般についてもここで検討することとしています。座長会の会長は企画部技術調整管理官、事務局は技術管理課としています。

表 1

	研究会名	座長	事務局
河川関係	河川環境技術研究会	事務所副所長	河川環境課
	河川構造物技術研究会	河川工事課 補佐	河川工事課
	ダム・砂防技術研究会	河川計画課 専門官	河川工事課
		ダム分科会	
砂防分科会	河川計画課 専門官		
道路関係	トンネル技術研究会	事務所 設計課長	道路工事課
	橋梁技術研究会	技術管理課 補佐	道路工事課
	舗装技術研究会	計画調整課 補佐	道路工事課
	交通計画研究会	交通対策課 補佐	道路計画課 地域道路課
	道路構造物研究会	河川工事課 補佐	道路工事課

4. 技術研究会の活動について

各技術分野における中部地方整備局のエキスパート集団としてメンバーの技術力向上を図るとともに、整備局すべての職員の能力開発と組織の技術力の保持・向上を目的として、表 2 の活動を

行っています。

なお、実施の詳細については各研究会において決定します。

このほか、「事務所が行う技術的検討や審査に参加」「職員研修の講師」「各県・産学との技術情報交換」等のメニューも検討されています。

5. イン트라ネットを利用した活動支援

技術研究会の活動を円滑に行うため、中部地方整備局職員のみがアクセスできるイントラネットに技術研究会のホームページを設けています。ここでは技術研究会の説明や会員専用ページにジャンプすることができるようになっています。

イントラネット：特定の企業や組織のみで利用するコンピュータネットワークのこと。ここでは、中部地方整備局職員のみがパソコンでアクセスでき、職員向けの情報を閲覧したりすることができるネットワーク。

・会員登録方法

イントラネットのホームページトップから会員登録画面に移り、氏名、メールアドレス、技術に関する経験等を入力することで、簡単に会員登録できます。

・会員検索

研究会ごとに登録会員の検索が行えます。さらに、登録会員の所属、メールアドレス、技術に関

表 2

活動名	内 容	実施回数
全体会議	全会員を対象とした会議	適宜
座長会	各研究会の座長で構成。各研究会の連絡調整、その他運営全般に関わる検討等を行う。	2～3回/年
技術研修会	若手職員の技術研鑽を支援するため研修会の企画・運営 ex. 講習会, x x 勉強会等	2～3回/年
現地調査会	大規模工事等の現地調査の企画・開催 ex. ダム現地調査, x x トンネル現地調査等	1～2回/年
技術支援	「技術コモン」を通じて全職員の持つ技術的課題へのアドバイスを行う。	通年

する経験等を参照することが可能です。

・専用掲示板

会員同士の意見交換や連絡事項の掲示ができます。座長会等で決まった役員内容や決定事項等の通知にも利用されています。

・メール送信

各研究会会員に対して、研究会ごと、もしくは全会員にメールを送信することができます。技術研修会や現地調査会のお知らせ等に利用されます。

図 3

図 4

6. 技術コモン (Common)

技術コモンとは、職員が日常勤務の中で直面する技術的課題を質問・相談、討論、意見交換できるイントラネット上の掲示板で、技術研究会会員以外の職員も利用ができます。

技術研究会の会員や諸先輩の知識や経験、ノウハウをイントラネットを通して活用し、職員個々の能力開発と組織の技術力保持・向上を目的としています。

情報交換を行う「相談部屋」と今後も参考となる事例や話題・情報を保存する「知恵袋」で構成されています。

コモン：もともとは共有地、公用地を表す言葉。そこから発展して共同体が共有する集団意識やライフスタイル（コモンセンス）の意味。技術顧問。

7. 今後の展開について

技術研究会は、平成12年12月の設立から4年が経過しましたが、本年度は新しい研究会の追加を行うなど、さらなる発展を目指しています。

また、各研究会では課題テーマを設定して、検討・とりまとめを行う活動やディスカッション形式で議論を進めていく「特別講座」など、業務上の課題も積極的に取り入れた活動が始まっています。

これからも、時代のニーズに合った技術力向上の活動を支援できる態勢作りを進めてまいります。